四国銘菓 88ヵ所巡り

番号付け紹介、ブランドに

地宝創造

霊場にちなみ有志企画

「一口食べると、故郷や子供時代を思い出す」。誰でもそんな懐かしい菓子の記憶があるのではないか。四国各地で古くから食べ継がれてきた菓子の情報を集め、四国八十八カ所霊場にちなんで88まで番号をつける取り組みが進んでいる。製造が中止される銘菓も増える中、ブランド力向上へ地域の宝として発信する。

プロジェクトの名前は「四国の懐かしいお菓子88」。略して「四国懐菓子（しこくなつかし）88」だ。メンバーは香川県在住の会社員、団体職員、農業者ら30～80歳代の10人ほどの有志で構成する。旅行業の有資格者だったり、地場経営者に豊富な人脈があったり、地域活性化の活動に携わっていたりと、面々は多彩だ。

四国懐菓子88 候補の例

徳島	川田まんぢう
	ラグビー饅頭
	鳴門饅頭
	和布羊羹
高知	野根まんじゅう
	鮎せんべい
	かんば餅
	小夏羊羹
愛媛	唐饅
	うにまんじゅう
	醤油餅
	汐くみ
香川	観音寺
	源平餅
	大師まんじゅう
	ぎょうせん飴

懐かしさが条件

四国懐菓子88に選ぶ基準は、地域でよく知られていることのほか、昭和30年代には存在し「観光地化する前から根付いていたこと」を重視する。家庭での自家消費だけでなく、店でも売られ、現在も入手できるものにする。

約2年前に本格的に情報収集を始め、すでに88を上回るデータを蓄積した。金長まんじゅう（徳島）、芋けんぴ（高知）、一六タルト（愛媛）、灸まん（香川）といった代表的な名物に加え、江戸期創業の老舗の商品も多い。今年6月にホームページとフェイスブックを立ち上げて公開、一般からも幅広く募って補充する。

四国各地には歴史ある銘菓が数多く残る

今年中にラインアップを固める予定だ。選ぶべき菓子の数が多くなったときは、四国外などにも知れ渡っていれば「別格」とし、88番までを逃しても紹介したいものは「番外」として発信していくという。

取り組みのきっかけは、同じ職場にいた3人がそれぞれの地元の菓子を持ち寄って食べ比べたこと。「ぶどう餅（香川）と、ぶどう饅頭（徳島）はどちらが本家か」「山田屋まんじゅう（愛媛）も負けていない」。郷土自慢に花が咲き、四国には古くから伝わる菓子が豊富にあると気付いた。

仕事で知り合った人などに出身地を聞いて、該当する商品がないか情報を得たりした。そんな折、酒蔵やダム、温泉などをお遍路さんの88カ所巡りのように紹介する活動を知り、「菓子版」もまとめようと仲間を集めた。

各地で後継者難

メンバーに共通する思いは「どこにでもある物ではなく、地域にしかない物を大切にしたい」（津田あつ子さん）。エチオピア饅頭、カブトガニ餅など、製造中止になったものは少なくない。職人が工夫を凝らして代々受け継いできた味と技法は各地で後継者難に直面している。

今も残る伝統菓子に光を当て、ブランド化して支える狙いだ。

「四国八十八箇所霊場と遍路道」は四国の産学官が一体となって世界遺産登録を目指している。懐菓子88もサブコンテンツとして、集客イベントや旅行企画にも使えるよう育てる計画だ。長年親しんできた地域の宝に新たな魅力が加わることになりそうだ。

（高松支局　深野尚孝）

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。